

1 ホール効果

図 1 のように、 xy 平面に平行に金属板をおき、 y 軸の正の向きに定常電流を流しながら z 軸の正の向きに磁束密度 B (強さ B) の一様な磁場をかけた。金属内の伝導電子(電荷 $-e$)は、磁場によるローレンツの力のため x 軸方向に進路がずれる。その結果、金属板の x 軸方向の側面 S_+ と S_- に正負の電荷が分布し、 x 軸方向に電場 E_H が生じる。 y 軸方向に流れる電流が定常なので、側面 S_{\pm} における電荷分布は一定である。

$$\text{ローレンツの力} \quad \mathbf{F} = q\mathbf{E} + q\mathbf{v} \times \mathbf{B} \quad (1)$$

問 1-1. 磁束密度 B を成分 (B_x, B_y, B_z) で表せ。

問 1-2. 電流密度の強さを i 、伝導電子の数密度を n として、電子の平均速度 \mathbf{v} の成分 (v_x, v_y, v_z) を求めよ。

問 1-3. 前問より、電子にはたらくローレンツの力(1)の第2項を成分で表せ。

問 1-4. 前問より、側面 S_+ と S_- に分布する電荷の符号を答えよ。

問 1-5. 前問より、電場 E_H の向きを答えよ。

問 1-6. 伝導電子が電場 E_H および磁束密度 B から受ける力がつり合う。式(1)を使い、電場 E_H の成分を求めよ。

問 1-7. 電流を担うものが伝導電子ではなく正電荷 q の粒子(数密度 n)であったとき、側面 S_+ と S_- に分布する電荷の符号を答え、電場 E_H の成分を求めよ。

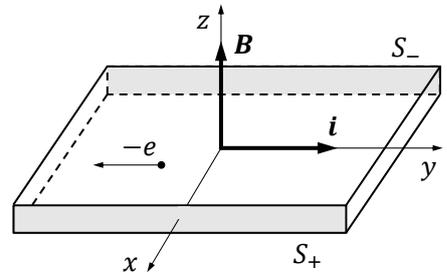


図 1: 金属に磁場(磁束密度 B)を加えながら、電流(電流密度 i)を流す。

2 振動電流

図 2 のように、交流電源 $\phi(t) = \phi_0 \cos \omega t$ 、電気抵抗 R 、コイル L 、コンデンサー C を直列につないだ。

問 2-1. 符号(図中矢印の向き)に注意し、抵抗 R の両端の電位差 ϕ_R とコイル L の両端の電位差 ϕ_L を電流 $I(t)$ で表せ。

問 2-2. コンデンサー C の両端の電位差 ϕ_C を、符号に注意し、コンデンサーに蓄えられる電荷 $Q(t)$ で表せ。

問 2-3. 回路を一周すると電位は元に戻るより、起電力 $\phi(t)$ 、電流 $I(t)$ 、電荷 $Q(t)$ を使って微分方程式をたてよ。

問 2-4. 電流 $I(t)$ と電荷 $Q(t)$ の関係を求めよ。

問 2-5. 複素数で表した関数 $\tilde{\phi}(t) = \phi_0 e^{i\omega t}$ 、 $\tilde{I}(t) = \tilde{I} e^{i\omega t}$ 、 $\tilde{Q}(t) = \tilde{Q} e^{i\omega t}$ をそれぞれ $\phi(t)$ 、 $I(t)$ 、 $Q(t)$ とみなして問 2-3 と問 2-4 の式に代入し、 \tilde{I} 、 \tilde{Q} の連立方程式を求めよ。

問 2-6. 前問の連立方程式を解き、 \tilde{I} を求めよ。

問 2-7. 回路のインピーダンス $\tilde{Z} = Z_0 e^{i\theta}$ の絶対値 Z_0 と位相 θ を求めよ。

問 2-8. $I(t)$ ($\tilde{I}(t)$ の実部) の振幅 I_0 を求め、横軸 ω のグラフを描け。

問 2-9. I_0 の最大値を求め、そのときの $\omega = \omega_0$ を L と C を使って表せ。

以下では、 $\omega = \omega_0$ とする。

問 2-10. 電流 $I(t)$ と電荷 $Q(t)$ のグラフを、時刻 $t = 0$ から 1 周期だけ描け。

問 2-11. $\phi_C + \phi_L$ を求めよ。

問 2-12. コンデンサーに蓄えられるエネルギー $\frac{1}{2} C \phi_C^2(t)$ のグラフを描け。

問 2-13. コイルに蓄えられるエネルギー $\frac{1}{2} L I^2(t)$ のグラフを描け。

問 2-14. 問 2-12, 問 2-13, および、電気抵抗で発生するジュール熱を考慮し、エネルギーの保存について述べよ。

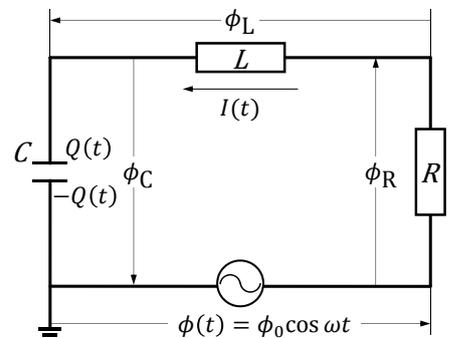


図 2: 起電力 $\phi(t)$ の交流電源、抵抗(電気抵抗 R)、コイル(インダクタンス L)、コンデンサー(静電容量 C)からなる回路